

ヒロシマの高校生が描いた

戦後80年記念企画画展
文化・芸術振興企画

第7回 「原爆の絵」展in有楽町

昨秋の日本被団協がノーベル平和賞を受賞するという快挙を追い風に臨む今回は、戦後80年の節目の開催です。お馴染みの基町高生の「原爆の絵」特製パネルや卒業生が描いた原画の展示のほか、重松文宏（当会会長／原爆小説「黒い雨」の語り部／被爆の実相を記録した「重松日記」著者＝重松静馬の娘婿）による特別講演会や原爆にまつわる絵本の朗読会に加え、紙芝居の上演会を初めて行います。さらに、戦後80年記念企画として、私どもと同様「継続は力なり」の精神で、戦争と平和をテーマに絵を描き、本催事に毎夏出展し続ける若き画家の活動を応援する画集作製プロジェクトに挑戦！様々な試みで【五感を活かして伝承する】を後押しします。



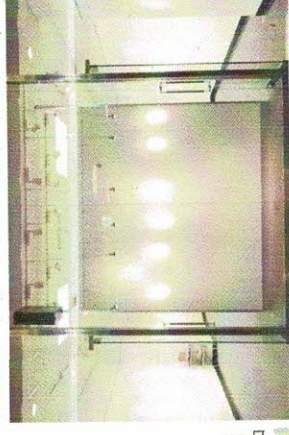
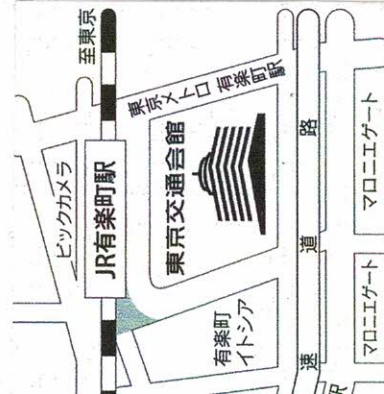
【日 時】 2025（令和7）年8月10日（日）～16日（土）

午前11時～午後6時（初日は午後1時～、最終日は午後5時）

【場 所】 東京交通会館地下1F ギャラリー「エメラルドルーム」等

（東京都千代田区有楽町2-10-1）

※講演等の会場は地下1F「シルバーサロンC」



【協力金】 500円（税込：中学生以上）

※小学生以下及び障がい者は無料

主催 井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会

～次世代と描く「原爆の絵」～

いま広島で、県内各所で展覧会が開催されたり、各方面から交流を求められ、TV・ラジオ・新聞・演劇などメディアを大いに賑わせている高校生たちがいることをご存じでしょうか？

その高校生たちとは、広島市立基町（もとまち）高校の創造表現コース・美術部に属する有志の生徒です。彼ら・彼女らは見た目には普通の高校生ですが、被爆者から約半年～1年をかけて被爆体験や原爆被害の実相を幾度も聞き取り、資料を収集し、より実情に近づけるべく、1人ひとりが個性や感性を最大限活かし、丁寧に細部を書き足しながら（被爆者は絵を目の前にすると、次々と当時の記憶が呼び覚まされる）、油絵を創り込んでゆくのです。

被爆者のお話に誘（いざな）われ、自らも原爆投下のあの日にタイムスリップして追体験する…その取り組みは生半可な心身でできるものではないといえます。時に、心や身体の不バランスを崩す生徒もいるとのこと。高校生とはいえ、いかに被爆者に寄り添い、真剣勝負なのかが察せられます。

こうした一連の協同（共同）作業によって、語り手の被爆者と聞き手・描き手の高校生の想いや意識が一体化した時、完成した絵は高校生のものと思えないほどの凄味（圧倒的な存在感と説得力）を持って観る者に迫り、心を揺さぶります。ただ、その凄味は、原爆の恐ろしさや戦争の悲しみ、やり場のない憤りや静かな怒りなど、様々な悲哀の表情にとどまりません。

未来ある高校生が挑み、描くからこそ、絶望が支配する絵の中にある、「自分たちが被爆者の想いを継いでゆくのだ」といった誓いや平和への願い、力強い意志がメッセージとして映し出され、観る者に一筋の希望や勇気をも与えているように感じます。

【第7回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展】特別企画（8月）

【特別講演会「戦後80年に考える 小説「黒い雨」を通じたメッセージ」（重松文宏氏）】

◎11日（月・祝）午後3時～ ◎12日（火）午後1時～

【原爆にまつわる絵本の朗読会（福岡照子氏）】

○10日（日）午後3時～ ○13日（水）午後1時～／4時～ ○16日（土）午後3時～

【原爆にまつわる紙芝居の上演会（赤松理氏）】

●14日（木）午後1時～／4時～ ●15日（金）午後1時～／4時～

・・・井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会とは・・・

当会は、井伏鱒二先生の生誕120周年にあたる2018（平成30）年より、一過性でなく「継続は力なり」の考えの下、井伏先生が原爆小説「黒い雨」を通じて後世に伝えたかったであろう【戦争の愚かさ・醜さ】、希求して止まない【世界の恒久平和】、そのために欠かさない【核なき社会】の実現に向けて尽力すべく、原爆小説「黒い雨」ゆかりの地：広島県神石高原町（本部）で発足（東京支部は杉並区）。文豪である井伏先生は趣味人でもあったため、様々な文化・芸術関連団体と連携、その支援・協力にも努めています。当会の名称は2022（令和4）年より、冠の生誕120周年を生誕125周年に改称しました。

2021（令和3）年1月22日、人類史上、画期的な「核兵器禁止条約」が無事発効され、いよいよ「核兵器の終わりの始まり」に向けて動き出すかと思われた中、ロシアがウクライナへ侵攻（現在も継続）。さらに今日、中東でも紛争が絶えず、米国トランプ政権（覇権主義）の登場で世界秩序が混乱し、第3次世界大戦さえ懸念されている戦後80年の今こそ、当会では原爆小説「黒い雨」や基町高生が描く「原爆の人類の英知が試されている戦後80年の今こそ、当会では原爆小説「黒い雨」や基町高生が描く「原爆の絵」の存在を多くの皆様に見知っていただき、家族や友人と平和について考えてほしいと願っています。

<問合せ> 井伏鱒二先生生誕125周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会 東京事務局

（担当：大越）TEL：090-2754-5652 メール：asaasaco@icloud.com